

九頭竜川の支川群の 河川整備計画について

(第15回流域委員会資料 抜粋)

平成16年5月20日

5 . 福井県の河川整備事業

福井県の河川整備投資額

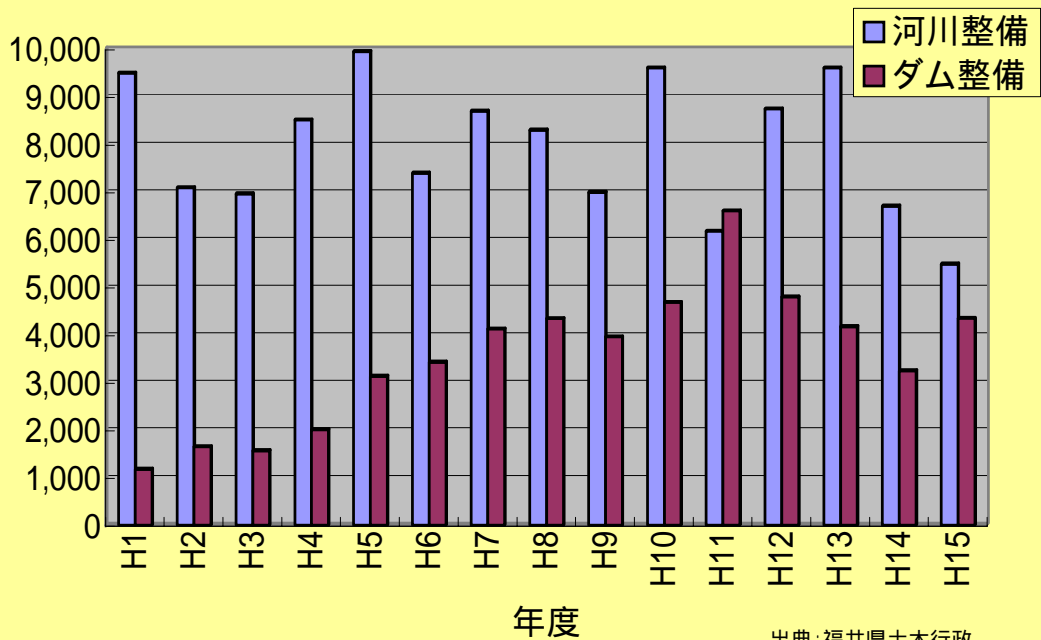
平成元年～平成14年までの投資額

単位：百万円

	H1～H14	年平均
河川整備	114,212	8,158
ダム整備	48,836	3,488

福井県の河川整備事業費の推移

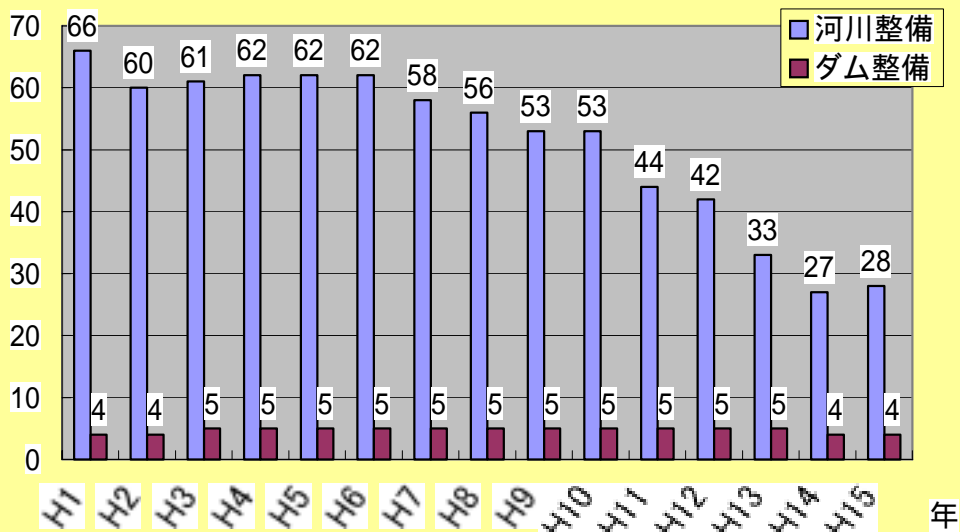
金額
(百万円)



出典：福井県土木行政

福井県の河川整備事業箇所数

箇所数の推移



福井県の河川事業費のまとめ

平成元年から平成14年までの投資額から推測すると

- 今後の投資可能額

河川整備	8,000百万円 / 年
------	--------------

ダム整備	3,500百万円 / 年
------	--------------

- 今後の個所数

河川整備	28箇所 / 年
------	----------

6 . 河川整備計画において 計画的に河川工事を 実施する箇所を選定

河川整備計画において計画的に 河川工事を実施する箇所を選定

福井県管理河川



河川整備計画において計画的に 河川工事を実施する箇所を選定(本川)

大河川(本川)

流域面積200km²以上の河川
(九頭竜川、日野川、足羽川、真名川
竹田川) (直轄管理区間除く)

家屋の浸水実績または、浸
水想定区域に200戸以上の家
屋がある。

計画対象洪水で浸水する。

Yes

優先順位が高い

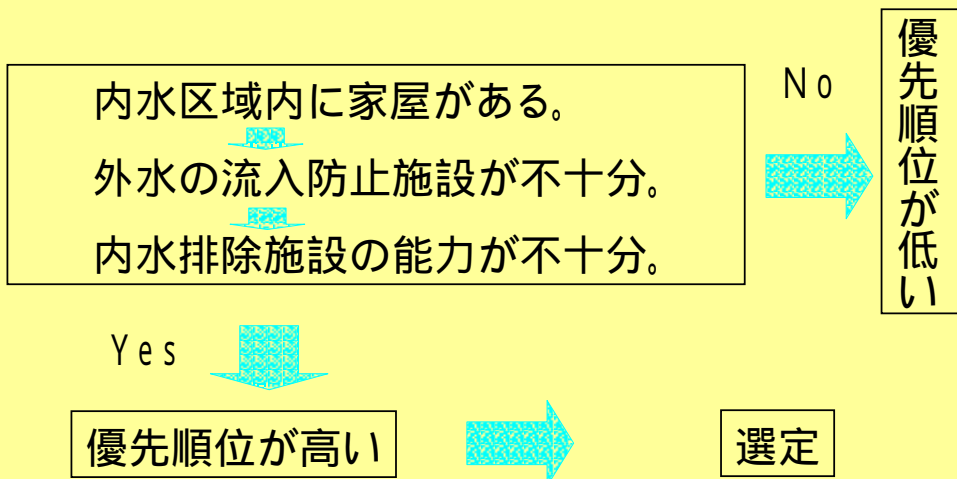
No

優先
順位
が
低
い

選定

河川整備計画において計画的に 河川工事を実施する箇所を選定(支川)

内水対策箇所選定手順



河川整備計画において計画的に 河川工事を実施する箇所を選定(支川) 外水対策箇所選定手順

想定氾濫区域内に家屋がある。

安全率が $1 / 30$ 以下。

過去30年間で家屋の浸水被害がある。

被災後の被害軽減対策が未完了。

想定氾濫区域内の家屋が200戸以上。

下流河川の流下能力がある。

No

優先順位が低い

Yes

優先順位が高い

選定

7. 治水計画の手順

治水計画の手順

・対象河川の現状の把握

社会的特性、地形・河川条件、水理水文特性の把握

・計画規模の決定

・流出解析

・基本高水の決定

・河道及び貯留施設への流量配分

計画流量の決定

貯留関数法

特性曲線法

単位図法

合理式

. 対象河川の現状の把握

. 社会的特性の把握

- ・ 流域面積
- ・ 市街地の面積
- ・ 氾濫面積
- ・ 宅地面積
- ・ 人口
- ・ 資産額
- ・ 工業出荷額

. 地形, 河川条件の把握

. 水理水文特性の把握

・ 計画規模の決定

福井県内河川の計画規模

「建設省河川砂防技術基準(案)計画編」に基づき設定
計画規模の実態

- 一級河川の主要な区間 : 1/100 ~ 1/200
- 一級河川の主要な区間以外 二級河川の都市河川 : 1/50から1/100
- 一級河川の主要な区間以外 二級河川の一般河川 : 1/10 ~ 1/50

計画規模の考え方

出典：建設省河川砂防技術基準(案)同解説 計画編

・ 河川の重要度

A級	1級河川の主要区間	1/200以上
B級		1/100 ~ 1/200
C級	1級河川の主要な区間以外、 2級河川の都市河川	1/50 ~ 1/100
D級	1級河川の主要な区間以外、 2級河川の一般河川	1/10 ~ 1/50
E級		1/10以下

福井県の計画規模の考え方

< 流域の指標 >

- ・ 流域面積
- ・ 氾濫面積
- ・ 資産額
- ・ 河川の形態

計画規模	単位	1/10	1/30	1/50	1/80	1/100
流域面積	km ²	5未満	5～50	50～100	100～200	200以上
氾濫防止面積	ha	100未満	100～1,000	1,000～3,000	3,000～5,000	5,000以上
同上資産	億円	100未満	100～500	500～1,000	1,000～2,000	2,000以上
同上密度	億円/ha	2未満	2～5	5～10	10～20	20以上
河川形態	-	山間地・掘込	山間地・築堤 田園・掘込	田園・築堤 市街地・掘込	田園市街地・築堤	市街地・築堤

計画規模の設定方針

計画規模は、各項目における規模の単純平均値を切り上げた値を基本とする。

将来の開発計画、上下流の計画規模の整合、市街地への土砂流入等を考慮して、計画規模に補正を加える。